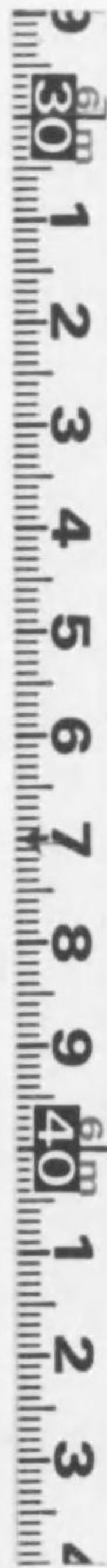


柳櫻帖

301
25



始





あはれなることぞかし

あはれなることぞかし

あはれなることぞかし

のな丸



あはれなることぞかし

あはれなることぞかし

あはれなることぞかし

あはれなることぞかし

あはれなることぞかし

Handwritten word, possibly "Hand".

Handwritten text, possibly "Handwritten text" or similar.

Handwritten text, possibly "Handwritten text" or similar.

Handwritten text, possibly "Handwritten text" or similar.

Handwritten text, possibly "Handwritten text" or similar.

Handwritten text, possibly "Handwritten text" or similar.

Handwritten text, possibly "Handwritten text" or similar.

Handwritten text, possibly "Handwritten text" or similar.

Handwritten cursive text on the left page, consisting of several lines of script.

15.
Handwritten cursive text on the right page, starting with the number 15. and followed by several lines of script.

あはれなる御心

よき御心

花のいろもつらきよ
赤もあはれなる御心

あはれなる御心

よき御心

よき御心

あはれなる御心

あはれなる御心

ゆらぎ

Handwritten signature or name.

たのむに
いふに
いふに
いふに

いふに
いふに
いふに
いふに

の
先

Handwritten signature or name.

いふに
いふに
いふに
いふに

いふに
いふに
いふに
いふに

いふに

Handwritten cursive text, likely a signature or name.

Handwritten cursive text, possibly a name or title.

Handwritten cursive text, possibly a name or title.

Handwritten cursive text, possibly a name or title.

Handwritten cursive text, possibly a name or title.

Handwritten cursive text, possibly a name or title.

Handwritten cursive text, possibly a name or title.

Handwritten cursive text, possibly a name or title.

Handwritten cursive text, possibly a name or title.

はるかに

はるかに

はるかに

はるかに

はるかに

はるかに

はるかに

はるかに

はるかに

はるかに

Handwritten cursive text, likely a signature or name.

Handwritten cursive text, possibly a name or title.

Handwritten cursive text, possibly a name or title.

Handwritten cursive text, possibly a name or title.

Handwritten cursive text, likely a signature or name.

Handwritten cursive text, possibly a name or title.

Handwritten cursive text, possibly a name or title.

Handwritten cursive text, possibly a name or title.

昔自後のいふらんなりあはしむ

よきことありき

かきしるゝのいふ

いふことありき

いふことありき

いふことありき

いふことありき

いふことありき

いふことありき

いふことありき

を~~~~~とらぬかきとらぬかき
に~~~~~とらぬかきとらぬかき

二

み~~~~~とらぬかきとらぬかき
ま~~~~~とらぬかきとらぬかき

~~~~~とらぬかきとらぬかき

~~~~~とらぬかきとらぬかき  
~~~~~とらぬかきとらぬかき  
~~~~~とらぬかきとらぬかき

冬のまゝのこゝろのまゝ

ちよとちよとちよとちよと

あそび

ちよとちよとちよとちよと

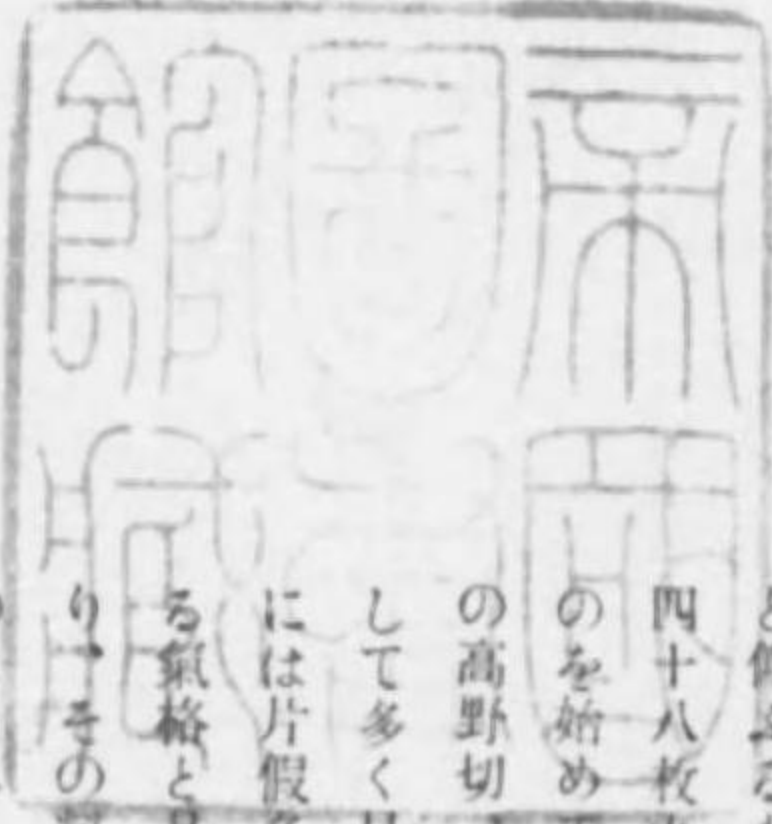
乃非小松百代ちよとちよと

ちよとちよとちよとちよと

ちよとちよとちよと

柳櫻帖解說

30/-25



名古屋關戸家所藏本を中心とする古今和歌集の零本は、藤原行成卿筆と傳ふるものゝ一である。同家の、春夏秋冬戀及び大歌所の各部の四十八枚九十六頁であるが、この外に逸出してをる斷簡は、横濱原家のを始めて數葉を存してをる。その字體寸松麻色紙に類してをり、かの高野切、柊尾切、家集切、或は倭漢朗詠集中の數本の如く、寫本として多く見る靜かな均整的の書風では無く、頗る自由に書き下し、中には片假名を交へた歌もある。併しながら走り書きでは無く、儼然たる氣格と品致とを具へつゝ、餘りある筆力を以て變化の妙を極めてをり、その料紙の白、紫、濃紫、緋、黄、綠、深綠など、打ち上つた色のほびと共に、一層上代の優美と崇高さを感じせしむるものである。

こゝにその中三十餘首を抄出し、能勢照郷、伊藤壽一兩氏の盡力に依りこれを手本として世に出し、多年の翹望を實現するに至つたのはこの道の爲め、洵に慶賀に禁へないところである。

出雲路通次郎

釋文

解讀の便を思つて適宜漢字を宛て濁點を施し、貞應本(流布本)と比較して異同あるものは、これを右側に示すこととした。各歌の下に記せる數字は、国歌大觀の番號である。

題しらす 一 よみ人しらす

折りつれば袖こそにはへむめの花
ありとやこゝに鶯のなく (三)

色よりも香こそあはれと思ほゆれ
誰が袖ふれし宿のむめども (三)

宿近くうめの花うゑじあぢきなく
待つ人の香にあやまたれけり (四)

水の邊にうめの花(ハ)咲けりけるをよめる

伊勢

春ごとに流るゝ川を花とみて
折られぬ水に袖やぬれなむ

(四三)

年をへて花のかゞみとなる水は
ちりかゝるをやくもるといふらむ

(四四)

なぎさの院にて櫻の花をみてよめる

ありはらのなりひらのあそむ

在皇太后御院

世の中にたえて櫻のさかざらば
春の心はのどけからまし

(四五)

題しらす

よみ人しらす

いしばしる瀧なくもがなも櫻ばな
をりてもてこむ見ぬ人のため

(四六)

見わたせば柳櫻をこきまぜて
都ぞ春の錦なりける

(四七)

櫻の花のもとにて年(の)老いぬることを
なけきてよめる

(きの)
ともものり

紀友則

色も香もおなじ昔に咲くらめど
年ふる人ぞあらたまりける

(四八)

春のうたとてよめる

よしみねのむねさだ

良伴書

花の色は霞にこめてみせずとも
香をだにぬすめ春の山かぜ

(九)

題しらす

よみ人しらす

春の色のいたるいたらぬ里はあらじ
さけるさかざる花の見ゆらむ

(九)

(きの)

つらゆき

絶頁之

夏の夜のふすかとすれば郭公

なくひと聲に明くるしのよめ

(一五六)

壬生忠岑

暮るゝかともれば明けぬる夏の夜を
あかすとやなく山ほととぎす

(一五七)

(おふしかうちの)躬恒

凡河内躬恒

郭公こゑもきこえずあまびこは
ほかに鳴くねをこたへやはせぬ

(一六)

山に郭公のなきけるをきよてよめる

つらゆき

ほととぎす人まつ山になくなれば
われうちつけに戀ひまさりけり

(二六三)

僧正遍昭

はちす葉のにごりにしまぬ心もて
などかは露を玉とあざむく

(二六五)

月の面白かりける夜晩方によみける

(きよはらの)ふかやぶ

清原深雪女

夏の夜はまだ宵ながら明けぬるを
雲のいづこに月やどるらむ

(二六六)

川風の涼しくもあるかうちよする
波とともにや秋は立つらむ

(二七〇)

題しらす

よみ人しらす

わがせこが衣の裾を吹きかへし
うらめづらしき秋のはつかぜ

(二七一)

おほえのちさと

大江千里

月見ればち々に物こそ悲しけれ
わが身一つの秋にはあらねど

(二七三)

よみ人しらす

いつはとは時はわかねど秋の夜ぞ
もの思ふことのかぎりなりける

(一八九)

秋の野にみちもまどひぬ松虫の
こゑする方に宿やかからまし

(二〇一)

秋の野に人まつ虫の音すなり
我かと行きていざとぶらはむ

(二〇三)

もみちばの散りてつもれるわが宿に
誰をまつ虫こゝらなくらむ

(二〇四)

ひぐらしのなく山里のゆふぐれは
風よりほかにとふ人もなし

(二〇五)

朱雀院の女郎花合によみて奉りける

左のおほいまうちぎみ

をみなへし秋の野かぜにうちなびき
心(こゝろ)をひとつを誰によすらむ

(二〇六)

ふちはらのさだかたのあそむ

藤原定方御歌

秋ならであふことかたき女郎花
天の川原におひぬものゆゑ

(二〇七)

あさぢふの小野の篠原しのぶとも
人知るらめやいふ人なしに

(五〇五)

人知れぬ思ひやなぞと蘆垣の
まぢかくみれども逢ふよしもなき

(五〇六)

思ふとも戀ふとも逢はむものなれや
ゆふ手もたゆく解くる下紐

(五〇七)

いで我を人などがめそ大船の
ゆたにたゆたにも思ふころを
をぐる崎みつの小島の人ならば

(五〇八)

都のつとにいざといはましを

(二九〇)

みさぶらひみかさとまうせ宮城野の

(二九二)

木の下露は雨にまされり

(二九三)

君をおきてあだし心をわがもたば
末の松山なみもこえなむ
冬の賀茂の祭のうた

ふちはらのとしゆきのおそむ

藤原教行題詞

ちはやぶる賀茂のまつりの姫小松
萬代ふとも色はかはらじ

(二九四)

古今和歌集

京都市中京區寺町通鋪小路上ル

發行所 鳩居堂

京都市下京區油小路正面下ル

印刷所 小林寫眞製版所

301
25

昭和十年一月五日印刷
昭和十年一月十日發行
(定價金壹圓也)

發行所 鳩居堂 熊谷直之
印刷所 小林寫真製版所

發行所 鳩居堂本店
發兌 鳩居堂支店

終